

会 議 録

会議の名称	第3回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会
開催日時	令和2年10月8日（木曜日） 午後8時から午後9時まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室
出席者	（出席委員） 渡邊座長、須加副座長、平塚委員、伊集院委員、伊藤委員、丸山委員、酒井委員、尾林委員、小柳委員、市村委員、篠宮委員、妻屋委員、石坂委員、石井委員、松本委員、松岡委員 （欠席委員） 浅野委員 （事務局） 健康福祉部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、以下10人
議題	（1）第2回会議録の確認について （2）西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）の骨子（案）について
会議資料の名称	（事前送付資料） 資料1 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）骨子（案） 資料2 第8期計画の構成（案）の第7期計画との比較 ・第2回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会会議録（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

以下、敬称略

会 議 内 容
1 開会 2 議題 (1) 第2回会議録の確認について ○座長： 第2回会議録の確認を行う。内容について、修正・変更等はないか。 ○委員 意見なし。(承認) (2) 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）の骨子（案）について ○事務局： 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）の骨子（案）について資料1及び資料2に沿って説明。 ○委員： 地域のコミュニティが希薄となり、支え合いを実現しづらくなってきている。地域共生社会や支え合いの理解の促進の意味合いも基本理念の中に入れていただけたらと思う。 ○委員： 西東京市は自治会や町内会が高齢化で減少している。市として、これらの活動が地域に浸透するような動きができると地域での支え合いの結びつきが強くなるのではないか。 ○委員： 第7期の章立てから順番が変わっているのは、優先順位が高いものから並べられているという理解で良いか。 ○事務局： 並びとして、まずは基本理念にも「いきいきと」とあるように、生きがいや健康づくりを1つ目にしている。2つ目は、計画の基盤となる体制づくりについて、3つ目、4つ目は認知症や在宅療養についてであり、全体としての住まいづくりやまちづくりを5つ目に記載している。最後にそれらを支える介護保険サービスを記載しており、次の第3部の介護保険事業の内容につなげていく流れとなっている。

○委員：

自治会や町内会の減少について先ほど話があった。それを踏まえると5つ目の施策の方向性も大切ではないのか。

○事務局：

西東京市では健康づくり、特にフレイル予防について力を入れて取り組んできた。また、国の指針でも述べられているように、認知症への対策、在宅療養体制を引き続き重視していく必要があるということを踏まえた形となっている。順番に優劣があるわけではない。

○委員：

「生きがい活動とフレイル予防の推進」についてどのように目標を立て、評価をするのか。

○事務局：

第2部の「基本理念の実現に向けた施策の展開」の中で、具体の施策を掲げていくことになる。これについては、次回の会議の議題となる。また、第4部「計画の推進体制」の中では、それらの進行管理や達成状況の評価を示したいと考えている。

○委員：

40ページの「当事者・家族支援の充実」で、当事者・家族だけではなく、支援をしている方への支援も考えていただきたい。

○委員：

今まで「住み慣れた地域」という表現であったが、「なじみの環境」となった。個人的な意見となるが、「なじみ」という言葉に違和感がある。この言葉を選んだ理由をお聞きしたい。

○事務局：

「住み慣れた」というと環境だけのイメージということも一部あると考える。「なじみ」は環境や人といったより広いイメージとなる。落ち着いた、住みやすい中で暮らしていただきたいという意味で新たに「なじみ」という言葉を選んだ。

○事務局：

「地域包括ケアシステム」という言葉を作られた方が、「住み慣れた」という表現から「なじみの環境の中で」という言葉に言い換えて表現している点も考慮している。

○委員：

39 ページの「高齢者の地域活動の推進」で、「高齢者自身が介護支援のボランティアとして活動しポイントを受け取る制度などを活用し」とあるが、高齢者がボランティアとして活動しているだけなのであれば、あえて「介護支援」という言葉をつける必要はないのではないか。また、ポイントのためにボランティアをしているのではないという方もいるため、若い人も活動している中で一緒に活動しませんかというような表現にしたほうが良いのではないか。

○委員：

ボランティアだけでなく就労という点も西東京市にはあるのではないかと。

○委員：

同じページの「生きがいを感じる活動の推進」に「高齢者の地域活動の推進」を含め、その説明の中で就労を加えることで、生きがいの中に様々な活動があるという説明にする方法もあると思う。

○委員：

施策の方向性や重点施策を見ていると「生きる」を中心にしているイメージが強いが、「幸せに死ねる」ということも大事なことでないか。アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）の推進なども入れて、安心して死ねるということも、もう少し強調できるような部分があっても良いと感じた。

○委員：

43 ページに記載の「認知症の方にやさしい体制づくり」で、介護者が総合的に支援する体制の充実がうたわれており、とても良いことだと思う一方で、大変なことだとも感じている。問題の本質をどう捉えるかが重要である。

○委員：

41 ページの「分かりやすい情報発信」や「介護事業者の人材確保、事業継続支援」について、例えば ICT の活用等介護保険の制度や運用に関することも入れていただくと良いと感じた。

○座長：

認知症施策推進大綱における共生の考え方は、認知症の方を支え合う存在として、地域の中で共生できる環境を作っていくという意味で、もう一步踏み込んだ理念の提案がされていると思う。現状の計画では、支えられるという一方の存在のように読み取れてしまわないか。この点を再度検討していただくと、一歩進んだ認知症施策の方向性が出せるのかと感じた。

○委員：

40 ページ、41 ページでは、「アンケートによれば」という書き出しとなっている。具体的にどのようなアンケート結果からの分析か。

○事務局：

40 ページの認知症に関するものでは、高齢者一般調査、若年者調査での結果である。また、41 ページの人生の最期に希望する場所については、高齢者一般調査、若年者調査、介護保険在宅サービス利用者調査、介護保険サービス未利用者調査など複数のアンケートでの傾向である。

○委員：

15 ページ、「計画策定の方法」のすぐ下に「アンケート調査」とあるが、本来は「市民意向調査」として、方法としてアンケート調査であるという記載の方が良いのではないか。

○事務局：

御指摘を踏まえ、表現を検討したい。

3 その他

○事務局：

第4回会議の日程について説明

4 閉会